

平成 28 年度立川市民と議会との意見交換会 (2/5 午前) 概要

- 1 日 時 平成 29 年 2 月 5 日 (日) 午前 10 時～11 時 30 分
- 2 場 所 女性総合センター・アイム 第 3 学習室
- 3 テーマ 子育て・教育について
- 4 参加者
 - (1) 市民 6 名
一番町 (2 名)、幸町 (1 名)、栄町 (1 名)、砂川町 (1 名)、
富士見町 (1 名)
 - (2) 議員 18 名
伊藤 (幸)、古屋、中山、木原、松本 (あ)、福島、山本、
大沢 (順)、瀬、伊藤 (大)、梅田、大石、上條、浅川、中
町、稲橋、谷山、大沢 (豊)
- 5 内 容
 - (1) 開会のあいさつ (議長)
 - (2) 進行についての説明 (司会) …プログラムに基づき説明
 - (3) 自己紹介 (議員及び参加された市民の方)
 - (4) 意見交換で出された意見等

【子育て】

◎保育園・学童保育所について

①待機児童問題

- ・二人目、三人目を産みたいと思うが、立川市は待機児童を何年までにどのように解消していくのか？あわせて、学童保育所の整備はどのようになっているのか。
- ・保育園の整備がよくできている。待機児童も減っている。
- ・学童については、他市のよい取り組みも参考にして欲しい。
- ・千代田区は待機児がいなくてというだけで転入が増えている。立川市も同様にしてみてはどうか。

- ・学童保育でも一時預り所があった方がいい。
- ・夏期だけでも丸一日預かってくれるところが欲しい。
- ・学童保育に6年生まで入所できるようになったのはありがたいが、やはり1年生の待機児はないようにして欲しい。

②市が発信する情報のあり方

- ・市民まで情報が届かない。
- ・こちらから動かないと情報が入らない。
- ・本当に必要な人に情報が届きやすいよう、ポスター・チラシ等ももっと使うべきである。
- ・情報弱者にとって、市役所窓口自体がハードルが高い。
- ・保育園は社会性を育てる場所であり、まずは家庭教育が一番である。

③保育園の民営化、質、働き等

- ・経費がかかるからと、民営化をしていくのはどうなのか。
- ・立川市の保育士の質は高いと思っていた。
- ・保育園卒園後の、学童も整備しないと仕事の継続ができない。
- ・民営の保育園では、保育士が妊娠等で辞めざるを得ない状況がある。安心して出産できる制度等保育士への支援を構築すべきである。
- ・保育園への監査は、普段の園の様子がわかるよう工夫して実施して欲しい。

- ・保育士が質と働きを保ち、安心して働けるように、保育士の給与を上げるなど待遇改善が必要である。
- ・ベテランの保育士がいた方が、若手の育成等においてもよい。

④居場所

- ・空き家を活用して、老人・子どもが集まる寺子屋のような取り組みをしてはどうか。
- ・ファミリーサポートセンターや保育園の一時預かりの制度等があっても、料金がかかるのと、信頼性の問題もある。

【教育】

◎特別支援教育について

①就学相談等

- ・発達障害のグレーゾーンの子どもの対応では、教育委員会の中で情報共有ができていないのではないか。
- ・特別支援教育は、保護者の意向に沿ってない。

②特別支援教室「キラリ^{*1}」の新制度等について

- ・同じ小学校の中で普通学級に在籍しながら、週1～2時間普通学級から情緒障がい児向け特別支援教室「キラリ」に通う「取り出し型」になることで心理的に負担もある。^{*2}
- ・障害のある子どもが普通学級に通うので、保護者やクラスの子たちにその子の状況を伝えたことで、先生をはじめとしてクラス全体で見てくれたことがあると聞いた。
- ・全校で「キラリ」の制度が始まり、通いやすくなることはよいことだが、心理的に負担に思う場合もあるので、実施する前にしっかりと対策をして欲しい。

- ・普通教室の先生方にも、もっと発達障害児のことを理解して欲しい。
 - ・情緒障害（キラリ）の子どもたちの固定学級が必要ではないか。
- ※1 通常の学級に在籍し、知的な発達に遅れがなく、通常の学級での学習に基本的には参加できるものの、社会面、学習面に課題のある児童が対象。
- ※2 これまでは通級指導学級がある他校まで通う必要があった。

③居場所

- ・グレーゾーンの子ども達の居場所がなくなっている。
- ・少しの手助けで子ども達は伸びていく。副担任制などで、さまざまな子どもたちに対応できるよう手当てができないか？

◎学校の設備について

- ・和式のトイレを使ったことがない子どもが大半なので、トイレを和式から洋式に変える必要がある。

◎情報発信について

- ・教育・保育等をはじめ市の取り組みは、全体的に情報がわかりにくい。

◎小学校・中学校教育について

- ・子どもの貧困が広がっており、進路も含め、これ以上増えないように、市としても対応をすべきである。
- ・いじめは、人権問題である。子どもと先生の交流が少ないのではないか。また交流が少ないのは、先生が授業の準備等だ

けでなく、さまざまな書類仕事などあっても多忙のため、事務処理は他に任せるなど、負担を軽減すべきである。

- ・タブレットを活用した授業もよいが、コミュニケーション力等のためにもアクティブラーニングを強化すべきである。
- ・教育は、形でなく中身が重要で、教育現場に合った指導をすべきである。

◎その他

- ・議会だより等をもっとわかりやすくして欲しい。

(5) 閉会のあいさつ (大沢豊議員)

平成 28 年度立川市民と議会との意見交換会（午後）概要

- 1 日 時 平成 29 年 2 月 5 日（日）午後 1 時 30 分～2 時 30 分
- 2 場 所 女性総合センター・アイム 第 3 学習室
- 3 テーマ 福祉・介護について
- 4 参加者
 - (1) 市民 1 名（富士見町）
 - (2) 議員 12 名
佐藤、安東、松本（あ）、江口、高口、門倉、太田、松本（ま）、
若木、稲橋、谷山、大沢（豊）
- 5 内 容
 - (1) 開会のあいさつ（太田議員）
 - (2) 進行についての説明（司会）…プログラムに基づき説明
 - (3) 自己紹介（議員及び参加された市民の方）
 - (4) 意見交換で出された意見等

【福祉・介護】

- ・判断力が十分でない高齢者や障害者が、契約や財産管理などの法律行為を行うことが難しい場合、家庭裁判所が成年後見人を選任する成人後見人制度もあるが、社会福祉協議会には、それよりもハードルを低くした「後見支援員」制度がある。こういった使いやすいサービスを、もっと周知した方がよい。
 - ・倫理観や意識の高い市民が選任される市民後見人制度が始まったが、養成講座を受講して、実際に市民後見人となる方は、責任が重いので少ないのではないか。
 - ・市民後見人や後見支援員の責任と待遇がアンバランスに感じる。
 - ・富士見町団地で高齢者の送迎車が多いのを見てみると、公共交通が必要だと感じる。
 - ・人に迷惑をかけたくないという方もいるので、そういった方へのアプローチが必要である。
- (5) 閉会のあいさつ（佐藤議員）